



Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool およびスクリプト言語



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

この付録には、Cisco VXC Manager ScriptBuilder および Cisco VXC Manager スクリプト言語を使用した Cisco VXC Manager パッケージの作成に関する詳細情報が記載されています。

次のトピックが含まれます。

- 「Cisco VXC Manager スクリプト言語の使用」(P.H-1)
- 「Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool の使用」(P.H-2)
- 「Cisco VXC Manager パッケージ構造の概要」(P.H-3)
- 「オプションの引数および HKEY_CURRENT_USER」(P.H-4)
- 「スクリプト ファイル構造の概要」(P.H-4)
- 「Version」(P.H-6)
- 「Script」(P.H-8)

Cisco VXC Manager スクリプト言語の使用

Cisco VXC Manager スクリプト言語は、(Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool を使用して、または使用せずに) 独自のソフトウェア パッケージを作成できるように設計されました。ソフトウェア パッケージは、スクリプト (.rsp) ファイルと必要なすべてのアプリケーションまたはイメージファイルからなります。ソフトウェア パッケージを作成してから、Cisco VXC Manager を使用して登録して 1 つ以上のデバイスに配布できます。

ソフトウェア パッケージをネットワーク上の 1 つ以上のデバイスに配布すると時間を節約できますが、注意と計画が必要です。有効性と信頼性を確保するために、別個のテスト デバイスでソフトウェア パッケージをテストすることが非常に重要です。



注意

一括配布を行う前に、必ずすべてのソフトウェア パッケージを徹底的にテストしてください。これは、パッケージ配布権限を持つ Cisco VXC Manager 管理者の責務です。

Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool の使用

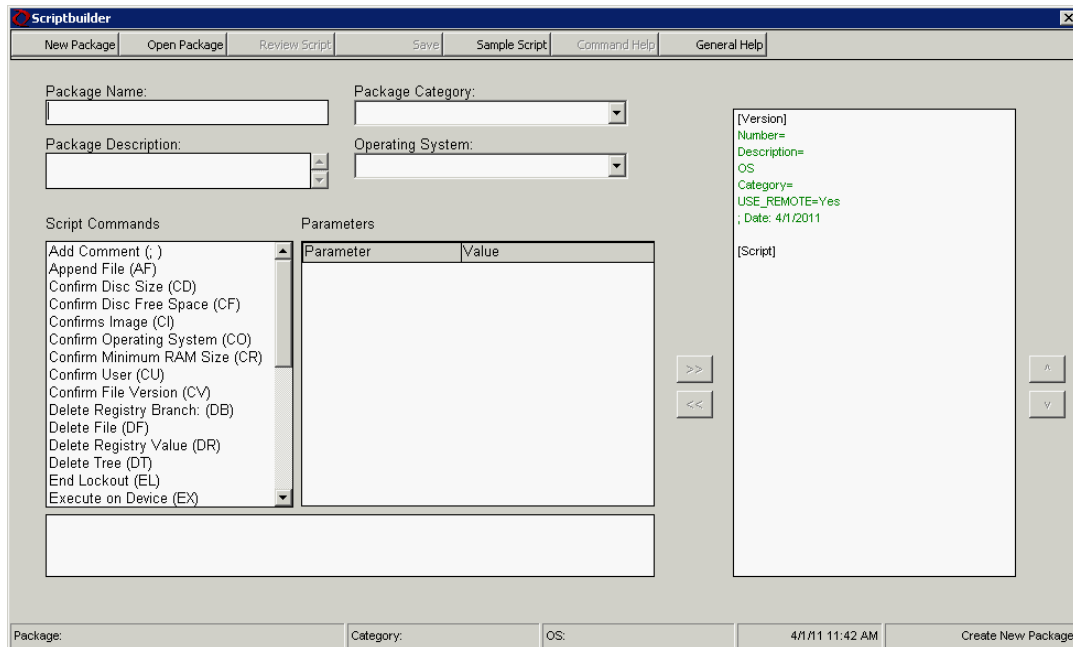
Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool は、Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの管理（作成、編集、および表示）に役立つよう設計されています。Cisco VXC Manager ScriptBuilder で使用可能なスクリプト コマンドの詳細については、「[Script](#)」(P.H-8) を参照してください。

新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの作成

手順

ステップ 1 [Start] > [All Programs] > [Cisco VXC Manager] > [ScriptBuilder] をクリックして、ScriptBuilder Tool を開きます。

図 H-1 Cisco VXC Manager ScriptBuilder



ステップ 2 [New Package] をクリックしてから、次の注意事項に従ってください。

- [Package Name] と（後で容易に認識できるように）[Package Name Description] を入力します。
- [Package Category] を選択します。
- [Operating System] を選択します。
- 追加するスクリプト コマンドを [Script Commands] リストから選択します。
- 必要なコマンドの値を入力します（一部のパラメータでは、自動的にデフォルト値が入力されます）。使用可能な値の詳細については、「[Script](#)」(P.H-8) を参照してください。
- [>>] をクリックして、スクリプト パッケージ ペインにスクリプト コマンドを追加します。
- スクリプト パッケージ ペインに追加するスクリプト コマンドを引き続き [Script Commands] リストで選択できます。

- スクリプト パッケージ ペインにスクリプト コマンドを追加する際に、スクリプト パッケージ ペインで項目を選択して、必要に応じて [add]、[remove]、[move up]、および [move down] コマンド ボタン矢印（可能な操作または論理的な操作に従って自動的にイネーブルまたはディセーブルになります）を使用して、必要なスクリプト パッケージをビルドできます。
- エントリをダブルクリックして、選択した行で変更を行うことによって、スクリプト パッケージ ペインで既存のスクリプトを直接編集することもできますが、このモードではコマンド構文またはパラメータの検証は実行されません。
- 情報については、必要に応じて、[Sample Script]（標準のサンプル スクリプトのあるフォームを開きます）、[Command Help]（[Script Commands] リストで選択したコマンドの詳細なヘルプ）、および [General Help]（スクリプトの一般的なヘルプ）を使用します。

ステップ 3 必要な Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの設定後に、[Save] をクリックします。

新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの編集

[Start] > [All Programs] > [Cisco VXC Manager] > [ScriptBuilder] をクリックして [ScriptBuilder] ダイアログボックスを開き、[Open Package] をクリックして、編集するパッケージを選択してから、「新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの作成」(P.H-2) の注意事項に従います。



ヒント

既存のスクリプト パッケージに行う変更は、元のパッケージ スクリプトからの変更を示すために、スクリプト パッケージ ペイン内では青色で示されます。

新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの確認

[Start] > [All Programs] > [Cisco VXC Manager] > [ScriptBuilder] をクリックして [ScriptBuilder] ダイアログボックスを開き、[Review Script] をクリックしてから、確認のために読み取り専用バージョンのスクリプトを開くパッケージを選択します。

Cisco VXC Manager パッケージ構造の概要

Cisco VXC Manager パッケージ構造は、次の 2 つのコンポーネントからなります。

- パッケージ スクリプト (.rsp) ファイル (ImgXL24.rsp)
 - 必要なアプリケーションまたはイメージ ファイル (ImgXL24) が格納されている Package フォルダ
- パッケージが正しく機能するには、これらの 2 つのコンポーネントが次の構造上の規則に従っている必要があります。
- パッケージ スクリプト ファイルには .rsp 拡張子が必要です。 .rsp ファイルは、Notepad で作成および編集できます。
 - パッケージ フォルダには、パッケージ スクリプト ファイルと同じ名前を付ける必要があります。
 - パッケージ スクリプト ファイルの [Version] セクションにある Number= パラメータは、デバイスによって Client Manager に報告される値と一致する必要があります。これは、デフォルトのデバイス設定機能を使用する場合は非常に重要になります。
 - パッケージ スクリプト ファイルによって参照されるすべてのファイルが、パッケージ フォルダまたはそのサブフォルダに格納されている必要があります。

■ オプションの引数および HKEY_CURRENT_USER

- コマンド引数はすべて二重引用符で囲む必要があります、またスペースだけで区切ります。
- すべてのレジストリパスはバックスラッシュ（「¥」）で区切り、引用符で囲みます。
- ルートレジストリキーには省略形を使用しないでください（たとえば、HKLM ではなく HKEY_LOCAL_MACHINE を使用します）。
- ファイル名はすべてバックスラッシュ（「¥」）で区切り、引用符で囲みます。
- パス名とレジストリブランチのいずれもバックスラッシュで終わることはできません。
- 通常、コマンドが失敗するとスクリプトは中止されます。コマンドが失敗した場合にスクリプトが中止されないようにするには、コマンドにアスタリスク（*）を付加します。（すべてのコマンドでこれがサポートされるわけではないことに注意してください）。
- <REGROOT>（例：<regroot>¥sourcefile.txt）は、登録済みパッケージのルートディレクトリ（c:¥inetpub¥ftproot¥rapport¥<packagename> など）を指します。



ヒント <regroot> は、（デバイスではなく）Cisco VXC Manager サーバの特定の場所でパッケージアプリケーションファイルを検索するよう Cisco VXC Manager サービスに指示するポイントです。<regroot> は、Cisco VXC Manager マスターリポジトリを見つけて、必要なパッケージファイルが格納されているフォルダを識別します。

オプションの引数および HKEY_CURRENT_USER

HKEY_CURRENT_USER レジストリブランチでの操作に関連するオプションの引数を持つコマンドは 4 つあります。

Cisco VXC Manager サービス HKEY_CURRENT_USER レジストリブランチは、どのユーザ HKEY_CURRENT_USER ブランチにも関連していないため、HKEY_CURRENT_USER に直接変更を行っても、通常は必要な影響は生じません。これらの 4 つのコマンドは、オプションの UserName 引数を指定して呼び出すと、HKEY_CURRENT_USER へのすべての参照が HKEY_USERS¥<username's SID> に変換されます。



ヒント

これらのコマンドは、配布時に特定のユーザがログオンしていない場合は失敗します。

スクリプトファイル構造の概要

Cisco VXC Manager スクリプト（.rsp）ファイルは、Cisco VXC Manager パッケージを構成する 2 つのコンポーネントのうちの 1 つです。

- パッケージスクリプト（.rsp）ファイル（ImgXL24.rsp）
 - 必要なアプリケーションまたはイメージファイル（ImgXL24）が格納されている Package フォルダ
- パッケージスクリプト（.rsp）ファイルは特定の構造に準拠している必要があります、次の 2 つのセクションを含んでいる必要があります。
- Version
 - Script

Version

Version セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。次に、Version セクションの各要素について説明します。

[Version] : 必要なセクション ヘッダー

Number= : パッケージ スクリプト ファイル名と同じでなければなりません

Description= : パッケージで実行可能な内容の簡単な説明

OS= : パッケージの対象となるオペレーティング システム

USE_REMOTE= : YES または NO。リモート リポジトリ (存在する場合) を使用するかどうかを指定します。デフォルト値は YES です。(任意)

DEPLOYEDSW= : YES または NO。Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージ テーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。デフォルト値は YES です。(任意)

Category= : パッケージが入れられる、Administrator Console 内の Cisco VXC Manager Package Manager カテゴリ。カテゴリが存在しない場合は、作成されることに注意してください。

イメージ カテゴリの特殊タグ

[Version] : 必要なセクション ヘッダー

ImageSize= : イメージのサイズ (MB 単位)

BootFloppy= : ブート フロッピーの名前。デフォルトは RAPPORT です

Use_PXE= : YES または NO。Category=IMAGES が指定されているすべてのスクリプトでデフォルト値は YES です

IMAGE= : 使用するイメージ ファイルの名前。デフォルトでは、Cisco VXC Manager は、パッケージ フォルダのファイルで見つかった最初のファイルを使用します (CRC.text を除く)。

Command= : 実行するイメージ操作

Script

Script セクションには、スクリプトの配布時に実行されるコマンドが含まれています。各コマンドは、[Script] セクション内に表示される順に実行されます。

推奨されるスクリプト テンプレート

```
[Version]
Number=Script name (matching the RSP_ file name and Package folder name)
Description=Detailed description with version number and valid images
OS=XX
Category=Other Packages
[Script]
Written by: Your Name and Company
; .....
; >Check the Operating System
; >Check the Image Version
; .....
CO "NT"
CI "XXXX"
; .....
; >Check Free Space
; >Check Minimum Memory, if necessary
; >Check User, if necessary
; .....
CF "X" "XXX"
CR "XXXX"
CU "XXXXXXXXX"
```

```

; .....
; > Query User then lock Workstation
; .....
QU
LU*
; .....
; >Add Commands Here
; .....
;SF "<regroot>%files%x.xxx" "c:%yyyy%zzzz"
;EX "c:%yyyy%zzzz"
;DF "c:%yyyy%zzzz"
;MR "<regroot>%xxxx.reg"
;SP "c:%windows%system.ini" "DISPLAY" "screen-size" "640"
; .....
; >End Lockout
; .....
EL*
; .....
; >Reboot, if necessary
; .....
RB
-----

```

Version

Version セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。

BootFloppy=

イメージング プロセス中に Cisco VXC Manager が使用するブート フロッピーを指定します。

- Rapportitf.0 (WISard イメージング用の Cisco VXC Manager Imaging エージェント)。
- pxelinux.0 (Merlin イメージング用)。

Category=

パッケージのカテゴリを定義します。Category= に別のカテゴリ名を入力してから、Cisco VXC Manager を使用してパッケージを登録すると、Package Manager の下にその名前のフォルダが作成されます。



ヒント

パッケージは、Category= を変更して、パッケージを再登録することで、あるカテゴリから別のカテゴリに移動できます。

Command=

実行するイメージ操作。

例：Command=%ImageWrite%

可能な値：

- %ImageWrite% (この値は DiskOnChip に書き込まれます)
- %ImageRead% (この値は DiskOnChip から読み取られます)

DeployedSW=

これは、Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージ テーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。

DEPLOYEDSW=Yes または No : 指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。このオプションは、主に DDC とともに使用されます。DDC で [Enforce Sequence] がイネーブルになっている場合は、デバイスに送信されるパッケージによって、DDC は、デバイスの再イメージ化を行います（そのため、パッケージはすべて削除されます）。DeployedSW=No を使用すると、ユーザは、配布を記録せずにデバイスにパッケージを送信できるため、DDC 操作はトリガーされません。

Description=

スクリプト開発者が、パッケージに関する簡単な説明を追加できるようにします。説明はコメント行で、スクリプトの実行時に Cisco VXC Manager によって解析されません。

Image=

これは、PXE 操作のためのイメージを読み取るか書き込む際に使用するファイル名を定義します。

Image=filename : デフォルトは、CRC.txt を除く、<regroot> で検出された最初のファイルです。

ImageSize=

クライアントに送信されるイメージのサイズを Cisco VXC Manager に示します。

値 : 8、16、24、32、48、64、72、80、96、128、144、192、256、512、1024

Number=

パッケージの名前を Cisco VXC Manager に示します。パッケージスクリプト (.rsp) ファイルの名前は Number= パラメータと一致する必要があります。たとえば、パッケージスクリプト名が ImgXL24.rsp の場合は、ImgXL24.rsp の [Version] セクションに Number=ImgXL24 が必要です。

例 :

```
[Version]
Number=[Number reported by device in Device Manager under Image]
Description=Image to Write to Device
OS=NT
Category=Images
USE_PXE=YES
USE_REMOTE=NO
DEPLOYEDSW=YES
IMAGE=[xyz24x1.img]
IMAGESIZE=24
```

OS=

デバイスで実行されているオペレーティング システムを定義します。

値 :

- XPe Windows XPe
- CE Windows CE 2.12
- CEN Windows CE .NET
- CE Windows CE 3.0

- WES Windows Embedded Standard
- LX Tuxia Linux
- BL WTOS
- RLX Red Hat Linux
- SLX SUSE Linux
- LVE Viance OS
- TDC ThreadX

Use_PXE=

Cisco VXC Manager は、Intel の Wired for Management 規格 Preboot eXecution Environment (PXE) を使用して、イメージをデバイスにロードします。デフォルトは、Category=Images の場合は Yes で、指定されていないか誤って指定されている場合はその他すべてのカテゴリ (Categories<>Images) で No です。

[Boot from LAN] が BIOS でイネーブルになっている場合、Use_PXE= です。パッケージを Cisco VXC Manager に非イメージング パッケージとして認識させるか、PXE 対応ではないシステムを操作している場合は、値として No を入力します。

値：Yes および No

Use_Remote=

これは、パッケージ (スクリプト バージョンおよび PXE) が、そのサブネットに割り当てられたリモートリポジトリを使用するかどうか、または常にマスターを使用するかどうかを定義します。

Use_Remote=Yes または No：指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。

Script

Script セクションには、スクリプトの配布時に実行される Cisco VXC Manager コマンドが含まれています。各コマンドは、[Script] セクション内に表示される順に実行されます。

Append File

バンプ：AF

説明：指定したテキストを、指定したデバイス ファイル名の最後に新しい行として追加します。

サポート：XPe、Linux

引数：

- パスおよびファイル名
- 新しいテキスト行

使用法：

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- AF "c:¥temp¥example.txt" "new line text" (これによって、行「new line text」が c:¥temp¥にある example.txt の最後に追加されます)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- AF "/wfs/Append.txt" "new line text" (これによって、行「new line text」が /wfs にある Append.txt の最後に追加されます)

一般規則 :

- このコマンドは、テキストの新しい行をテキスト ファイルの最後に付加します。ファイルがまだ存在しない場合は、作成されます。これは、追加のコマンドをバッチおよびスクリプト ファイルに追加する際に非常に便利です。



ヒント

このコマンドが機能するには、宛先ディレクトリが存在している必要があります。

Confirm Disk Free Space

パーブ : CF

説明 : 空き容量が、指定したデバイス ドライブの指定の量よりも大きいことを確認します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- デバイスのドライブ文字 (コロンは必要ありません。CE と Linux では、ブランクでなければなりません)
- KB 単位の空き

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CF "C" "2048" (C:¥ ドライブに少なくとも 2 MB の空き容量があることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CF "" "2048" (ストレージ デバイスに少なくとも 2 MB の空き容量があることを確認します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CF "" "512" (ストレージ デバイスに少なくとも 2 MB の空き容量があることを確認します)

一般規則 :

- このコマンドは、すべてのスクリプトに含める必要があります。
- デバイスのドライブ文字にコロンを含めないでください。

Confirm File Version

バーブ : CV

説明 : デバイス ファイル名を指定されたオペランドおよび値と突き合わせて確認します。

サポート : XPe、CE.Net、CE 3.0

引数 :

- デバイス ファイル名 (CE アドオン名)
- テスト (<, =, >, <=, >=, または !=)
- 値 (10 進数 #)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CV "c:¥Program Files¥Rapport¥HAgent.exe" ">=" "4.0.0.73" (HAgent.exe がバージョン 4.0.0.73 以降であることを確認します)
- CV "c:¥windows¥system32¥mfc42.dll" "!=" "6.0.9586.0" (mfc42.dll がバージョン 6.0.9586.0 ではないことを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CV "ICA" ">=" "0019" (ICA アドオンがバージョン 019 以降であることを確認します)
- CV "ICA" "=" "0023" (ICA アドオンがバージョン 0023 であることを確認します)
- CV "ICA" "<" "0031" (ICA アドオンがバージョン 0031 未満であることを確認します)



ヒント

CV コマンドは CE.212 ではサポートされません。

一般規則 :

- CE アドオン名には、Administrator Console で報告されたアドオン名を使用します。

Confirm Image

バーブ : CI

説明 : デバイスのオペレーティング イメージを確認します。このコマンドは、デバイスにある image.ver のイメージ番号の最初の文字 (パラメータで指定された文字の同じ番号) を使用します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- イメージ バージョン部分文字列

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例：

- CI "1.2" (デバイスのイメージ番号が 1.2 で始まることを確認します。そのため、1.21、1.256、1.295.45 はすべて成功を報告します)
- CI "2.00297.192" (デバイスのイメージ番号が 2.00297.192 で始まることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CI "441" (デバイスのイメージ番号が 441 で始まることを確認します。そのため、441.6、441.22、および 441.39.7 はすべて成功を報告します)
- CI "486.7.1" (デバイスのイメージ番号が 486.7.1 で始まることを確認します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CI "3.6.3.00.5" (デバイスのイメージ番号を確認します)
- CI "3.6.3." (デバイスのイメージ番号を確認します)
- CI "3." (デバイスのイメージ番号を確認します)

一般規則：

- このコマンドは、すべてのスクリプトに含める必要があります。
- イメージバージョン部分文字列は、イメージ番号の最後にワイルドカードが存在する場合と同様に動作します。たとえば、コマンドが CI="441" の場合、イメージ番号 441.22 と 441.23 が合格します。イメージ 440 と 442 は不合格です。

Confirm Minimum RAM Size

バンプ：CR

説明：少なくとも指定された量のメモリがデバイスにあることを確認します。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数：

- RAM の最小量 (KB 単位)

使用法：

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CR "16000" (デバイスに最小 16 MB の RAM があることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CR "16000" (デバイスに最小 16 MB の RAM があることを確認します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CR "32000" (デバイスに最小 32000 MB の RAM があることを確認します)

一般規則：

- このコマンドは、特定の量のメモリを必要とするソフトウェアを配置するすべてのスクリプトに含める必要があります。

Confirm Operating System

バープ：CO

説明：デバイスのオペレーティングシステムを確認します。このコマンドは、OS タイプに文字列表現を使用します (つまり、CO "XPe")。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数：

- デバイスのオペレーティングシステム
- 省略可能な CE バージョン引数 (CE だけで有効)

使用法

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

- XP=Windows XP

例：

- CO "XP" (オペレーティングシステムが XP であることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

CE=CE 2.12、または

CEN=CE.Net、または

TPC=CE 3.0

例：

- CO "CE" (OS が CE 2.12 であることを確認します)
- CO "CEN" (OS が CE.Net であることを確認します。OS が CE.Net バージョン 4.0 または 4.10 の場合は true を戻します)
- CO "CEN" "4.10" (OS が CE.Net バージョン 4.10 であることを確認します。OS が CE.Net 4.10 の場合は true を戻し、OS が CE.Net バージョン 4.0 の場合は false を戻します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

LX=Tuxia Linux

例：

- CO "LX" (オペレーティングシステムが LX であることを確認します)

一般規則：

- このコマンドは、すべてのスクリプトに含める必要があります。

Confirm User

バージョン : CU

説明 : 指定したユーザがデバイスにログインしていることを確認します。

サポート : XPe

引数 :

- ユーザ名

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CU "Administrator" (「管理者」が現在ログオンしていることを確認します)

一般規則 :

- このコマンドは、ユーザ固有のレジストリ コマンドを使用するすべてのスクリプトに含める必要があります。

Delete File

バージョン : DF

説明 : 指定されたデバイス ファイル名を削除します (DEL または rm に相当)。

サポート : XPe、CE 2.12 (限定的なサポート)、CE.Net (限定的なサポート)、CE 3.0、Linux

引数 :

- パスおよびファイル名

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DF "c:\%winnt%\filedelete.txt" (特定のファイルをデバイスから削除します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DF "%Windows%\filedelete.txt" (特定のファイルをデバイスから削除します)

Cisco VXC デバイスでは、次の限定された DF コマンドがサポートされます。

- DF "Gkeyreset" (デバイスを出荷時の初期状態にリセットします)
- DF "CEAddon" "<addon name>" (3 番目の引数で指定したアドオンを削除します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DF "/wfs/SendTest/filedelete.txt" (特定のファイルをデバイスから削除します)

一般規則：

- デバイス ファイル名にはパスを含める必要があります。

Delete Registry Branch

バンプ：DB

説明：指定されたレジストリ ブランチを削除します。



警告

このコマンドは注意して使用してください。実行後は取り消すことができません。

サポート：XPe

引数：

- デバイス キー文字列
- ユーザ プロファイル (CE と一緒には使用されません) (任意)

使用法：

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：Yes

例：

- DB "HKEY_LOCAL_USER¥Printers" "user" (指定されたレジストリ ブランチをユーザ プロファイルから削除します)

一般規則：

- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- Cisco VXC Manager Agent は、システムのセキュリティ コンテキストで実行されます。このため、Cisco VXC Manager の HKEY_CURRENT_USER は、現在ログインしているユーザではなくシステム ユーザです。これを解決するには、システム ユーザではなく、指定したユーザに変更を適用するようエージェントに指示する特殊なユーザ名引数が存在する必要があります。このコマンドを正常に実行するには、指定したユーザがコンピュータにログインしている必要があります。ハイブの場所を解決するためにユーザ プロファイル名が使用されることに注意してください。プロファイル名とユーザ名は異なってもかまいません。

Delete Registry Value

バンプ：DR

説明：指定したデバイスのレジストリ キーを削除します。ユーザ固有のレジストリ 値の変更には、省略可能なユーザ名が使用されます。REDEDIT ファイルは HKEY_CURRENT_USER を使用する必要があります。Cisco VXC Manager は、これを HKEY_USERS_USERSID に変更します



警告

このコマンドは注意して使用してください。実行後は取り消すことができません。

サポート：XPe

引数：

- デバイス キー文字列
- ユーザ プロファイル (任意)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DR "HKEY_CURRENT_USER¥CONTROL_PANEL¥COLORS¥background" "user" (指定したレジストリ キーを「user」のプロファイルから削除します)

一般規則 :

- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- Cisco VXC Manager Agent は、システムのセキュリティ コンテキストで実行されます。このため、Cisco VXC Manager の HKEY_CURRENT_USER は、現在ログインしているユーザではなくシステム ユーザです。これを解決するには、システム ユーザではなく、指定したユーザに変更を適用するようエージェントに指示する特殊なユーザ名引数が存在する必要があります。このコマンドを正常に実行するには、指定したユーザがコンピュータにログインする必要があります。ハイブの場所を解決するためにユーザのプロファイル名が使用されることに注意してください。プロファイル名とユーザ名は異なっていてもかまいません。
- 変更を有効にするには、DR の後に Reboot コマンド (RB) を使用する必要があります。

Delete Tree

バーブ : DT

説明 : 指定したデバイス ディレクトリとその内容を削除します (DELTREE または rm -R に相当)。

**警告**

このコマンドは注意して使用してください。実行後は取り消すことができません。

サポート : XPe、Linux

引数 :

- デバイス ディレクトリ

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DT "C:¥Test" (「Test」フォルダとその中のすべてのファイルを削除します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DT "/wfs/Test" (「Test」フォルダとその中のすべてのファイルを削除します)

一般規則 :

- なし

End Lockout

バーブ : EL

説明 : LU コマンドによってクライアントデバイスに表示されるスプラッシュ画面を削除します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net

引数 :

- なし

使用法 :

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

– EL

- CE の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

– EL

一般規則 :

- このコマンドは常に LU とともに使用する必要があります。すべての非イメージ スクリプトでこのコマンドを使用することを推奨します。

Execute on Device

バープ : EX

説明 : 指定したクライアント ファイル名を実行します (指定したファイルが実行可能であると想定します)。

サポート : XPe

引数 :

- パスおよびファイル名
- 同期実行 (任意)

使用法 :

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- EX "c:¥test.exe" (デバイスで c:¥test.exe を実行して、スクリプトの次のコマンドに進みます)
- EX "c:¥test.exe" "+" (デバイスで c:¥test.exe を実行して、スクリプトの次のコマンドに進む前に、実行可能ファイルが終了するまで一時停止します)
- EX "c:¥test.exe" "+30" (デバイスで c:¥test.exe を実行して、スクリプトの次のコマンドに進む前に、実行可能ファイルが終了するか 30 秒経過するまでのいずれか早いほうのタイミングに一時停止します)

一般規則 :

- コマンドは、デバイスのコマンドプロンプトから実行する場合のまったく同じように実行できます。
- Windows では、実行可能ファイルが登録済みの Windows アプリケーションである場合はパスを省略できます

- 省略可能な同期引数によって、実行可能ファイルが終了するまでスクリプトの処理は停止します。このオプションは、タイムアウトなしの「+」、または「+n」として表すことができます。ここで、n は、スクリプトの処理を続行するまでに待機する最大時間（秒単位）を示します。



ヒント

処理とシステムの速度の違いのため、このオプションを使用することを強く推奨します。

Get File

バープ : GF

説明 : 指定したデバイス ファイル名を指定したマスター リポジトリ ファイル名にコピーします (COPY または cp に相当)。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- デバイス ファイル名 (送信元)
- マスター リポジトリ ファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GF "c:¥temp¥temp.txt" "<regroot>¥temp.txt" (temp.txt をデバイスからマスター リポジトリにプルします)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GF "¥Windows¥temp.txt" "<regroot>¥temp.txt" (temp.txt をデバイスからマスター リポジトリにプルします)

Cisco VXC デバイスでは、GF のサポートは限定されています。

- GF "CEConfig" "<regroot>¥Settings.reg" (デバイス レジストリをマスター リポジトリの Settings.reg にエクスポートします)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GF "/wfs/SendTest/zero1.txt" "<regroot>¥zero.txt" (zero1.txt をデバイスからマスター リポジトリの zero.txt にプルします)

一般規則 :

- 取得操作では、常にマスター リポジトリにプルされます。
- 送信元とターゲットのファイル名には、完全なパスが含まれている必要があります。
- 宛先パスは <regroot> で定義する必要があります。

Get Registry

バーブ : GR

説明 : 指定したデバイス レジストリ ブランチをエクスポートします。結果として生じるローカル ファイル名は REGEDIT4 形式になります。

サポート : XPe

引数 :

- デバイス レジストリ ブランチ
- マスター リポジトリ ファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GR "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rappport" "<regroot>¥Rappport.reg" (Cisco VXC Manager レジストリ設定をスクリプト フォルダ内の Rappport.reg にエクスポートします)

一般規則 :

- 取得操作では、常にマスター リポジトリにプルされます。
- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- 結果として生じるローカル ファイル名は REGEDIT 形式になります。
- 宛先には、<regroot> で定義した完全なパスが含まれている必要があります。

Get Registry Value

バーブ : GV

説明 : 単一のレジストリ値をファイルに取得します。次のタイプがサポートされています。

- REG_SZ
- REG_MULTI_SZ
- REG_EXPAND_SZ
- REG_DWORD
- REG_BINARY

出力ファイル タイプは次のとおりです。

- Windows NT 4.0 : REGEDIT4 形式、PC/ANSI
- Windows 2K/XP : Regedit v5.00、PC/UNICODE



ヒント

特定のレジストリ キーは OS によってロックされていることがあり、GV 操作を妨害する可能性があります。レジストリ値がロックされていないことをデバイスの製造元と確認してください。

次のいずれかを使用してデバイスをリブートしない限り、レジストリ値の変更は永続的ではありません。

- RB (reboot) コマンドを使用して
- [reboot] を右クリックして
- 手動による操作

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0

引数 :

- レジストリ エントリ名を含むレジストリ キーのフルパス
- マスター リポジトリ ファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

```
- GV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue1"
  "<regroot>¥TestValue1.reg" (TestValue1 をスクリプト フォルダ内の TestValue1.reg にプルし
  ます)
```

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

```
- GV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue1"
  "<regroot>¥TestValue1.reg" (TestValue1 をスクリプト フォルダ内の TestValue1.reg にプルし
  ます)
```

一般規則 :

- 取得操作では、常にマスター リポジトリにプルされます。
- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- 結果として生じるローカル ファイル名は REGEDIT 形式になります。
- 宛先には、<regroot> で定義した完全なパスが含まれている必要があります。

Local Pause

バーブ : LP

説明 : 数秒間サーバを一時停止します。これによって、しばらくかかる可能性があるコマンドの後にサーバを一時停止できます。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0

引数 :

- 一時停止する秒数

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

```
- LP "30" (スクリプトの処理を 30 秒間一時停止します)
```

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

```
- LP "30" (スクリプトの処理を 30 秒間一時停止します)
```

一般規則：

- なし

Lockout User

バープ：LU

説明：更新が行われていることを説明するスプラッシュ画面をデバイスに表示します。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0

引数：

- Yes または No（省略可能）

使用法：

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：Yes

例：

- LU（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）
- LU "Yes"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを自動的に削除します）
- LU "No"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：Yes

例：

- LU（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）
- LU "Yes"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを自動的に削除します）
- LU "No"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）

一般規則：

- このコマンドは常に EL とともに使用する必要があります。すべての非イメージ スクリプトでこのコマンドを使用することを推奨します。

Merge Registry

バープ：MR

説明：指定したデバイス ファイル名をマージします。デバイス ファイル名は REGEDIT 形式でなければなりません (regedit -s に相当)。ユーザ固有のレジストリ値の変更には、省略可能なユーザ名が使用されます。REDEDIT4 ファイルは HKEY_CURRENT_USER を使用する必要があります。Cisco VXC Manager は、これを HKEY_USERS_USERSID に変更します。

サポート：XPe

引数：

- ローカル ファイル名

- ユーザ プロファイル (任意)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- MR "<regroot>%control_panel.reg" "user" (control_panel.reg を「user」のプロファイルにマージします)

一般規則 :

- ファイル名には、<regroot> で定義した完全なパスが含まれている必要があります。
- 指定するファイル名は REGEDIT ファイルでなければなりません。
- 変更を有効にするには、MR の後に Reboot コマンド (RB) を使用する必要があります。
- ユーザ固有のレジストリ値の変更には、省略可能なユーザ名引数が使用されます。



ヒント

REEDIT ファイルは HKEY_CURRENT_USER を指定する必要があります。Cisco VXC Manager は、実行時にこれを HKEY_USERS_USERSID に変更します。Cisco VXC Manager Agent は、システムのセキュリティ コンテキストで実行されます。このため、Cisco VXC Manager の HKEY_CURRENT_USER は、現在ログインしているユーザではなくシステムユーザです。これを解決するには、システムユーザではなく、指定したユーザに変更を適用するようエージェントに指示する特殊なユーザ名引数が存在している必要があります。このコマンドを正常に実行するには、指定したユーザがコンピュータにログインしている必要があります。ハイブの場所を解決するためにユーザ プロファイル名が使用されることに注意してください。プロファイル名とユーザ名は異なっていてもかまいません。

Query User

パーブ : QU

説明 : 保留中の更新に関してユーザに照会します。ユーザは、更新を今すぐ受け入れるか、更新を 5 分または NT Server への次のログオンまで延期できます (NT/XP だけ)。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- ボタン (任意)
 - 1 : 今だけ
 - 2 : 5 分だけ遅延
 - 3 : 今および 5 分遅延
 - 4 : ログイン時だけ更新
 - 5 : 今およびログイン時に更新
 - 6 : 5 分遅延およびログイン時に更新
 - 7 : 今、5 分遅延、およびログイン時に更新
- タイムアウト (秒単位) (省略可能)



ヒント

引数を 1 つ使用する場合は、両方を指定する必要があります。

使用法 :

• XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- QU (ボタンが示された [query user] ダイアログと、Cisco VXC Manager サーバによって設定されたタイムアウトを表示します)
- QU "2" "5" (5 秒間「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)
- QU "3" "120" (120 秒間「今更新」および「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)

• CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- QU (ボタンが示された [query user] ダイアログと、Cisco VXC Manager サーバによって設定されたタイムアウトを表示します)
- QU "2" "5" (5 秒間「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)
- QU "3" "120" (120 秒間「今更新」および「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)

• Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- QU "1" "5" (5 秒間「今更新」および「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)

一般規則 :

- ユーザの確認なしでのコンピュータの更新に関する企業のポリシーを確認してください。
- 引数が定義されていない場合は、Cisco VXC Manager 設定のグローバル値が使用されます。
- ユーザが割り当てられたタイムアウト内に選択を行わなかった場合は、更新が自動的に行われます。

Reboot

バーブ : RB

説明 : デバイスをリブートします。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- なし

使用法 :

• XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- RB (デバイスをリブートします)

- CE の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- RB (デバイスをリブートします)

- Linux の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- RB (デバイスをリブートします)

一般規則 :

- なし

Send File

パーブ : SF

説明 : 指定したローカル ファイル名を指定したデバイス ファイル名にコピーします (COPY または CP DOS コマンドに相当)。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- リポジトリ パスとファイル名 (送信元)
- デバイス パスとファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :
– SF "<regroot>%logos.bmp" "c:%winnt%logos.bmp" (logos.bmp をリポジトリからデバイスの c:%winnt%logos.bmp にコピーします)

- CE の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :

- SF "<regroot>%sol.exe" "%Windows%sol.exe" (sol.exe をリポジトリからデバイスの %Windows%sol.exe にコピーします)

Cisco VXC デバイスでは、SF のサポートは限定されています。

- SF "CEFirmware" "<regroot>%image.bin" (image.bin (アドオンまたは CE イメージ全体のいずれか) をデバイスにロードします)
- SF "CEConfig" "<regroot>%setting.reg" (settings.reg をデバイスに適用します。.reg ファイルは、適用前にフィルタリングされることに注意してください)

- Linux の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :

- SF "<regroot>%SendTest%zero.txt" "/wfs/SendTest/zero1.txt" (zero.txt をリポジトリからデバイスの /wfs/SendTest/zero1.txt にコピーします)

一般規則：

- 送信元と宛先の両方にフルパスが含まれている必要があり、送信元のパスは <regroot> で定義されている必要があります。
- 宛先ファイル名は、送信元ファイル名と同じである必要はありません。

Set Device Information**バープ：SC**

説明：このコマンドを使用すると、デバイス情報を容易に設定できます。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数：

- CN= コンピュータ名
- CO= 連絡先
- LO= 場所
- C1=Custom1
- C2=Custom2
- C3=Custom3

使用法：

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SC "CN=DeviceName" "LO=location" "CO=contact" "C1=custom1" "C2=custom2" "C3=custom3" (デバイスを名前変更して、すべてのカスタム情報を設定します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SC "CN=DeviceName" "LO=location" "CO=contact" "C1=custom1" "C2=custom2" "C3=custom3" (デバイスを名前変更して、すべてのカスタム情報を設定します)
- SC "LO=Here" "CO=Admin" (コンピュータ名またはカスタム 1～3 を変更せずに場所と連絡先を設定します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SC "CN=DeviceName" "LO=location" "CO=contact" "C1=custom1" "C2=custom2" "C3=custom3" (デバイスを名前変更して、すべてのカスタム情報を設定します)

一般規則：

- 各引数は省略可能です。必要な数の引数を設定できます (ただし、少なくとも 1 つは設定する必要があります)。
- 同じコンピュータ名 (CN=) を持つデバイスを複数設定しないでください。

Set Network Information

パーブ : SN

説明 : この新しいコマンドを使用すると、ネットワーク情報を容易に設定できます。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- IP=IP アドレス
- ED=DHCP オン/オフ
- SM=サブネット マスク
- GW=ゲートウェイ アドレス
- 0D=DNS 手動 (0) または自動 (1)
- 1D=DNS 手動エントリ 1
- 2D=DNS 手動エントリ 2
- 0W=WINS 手動 (0) または自動 (1)
- 1W=WINS 手動エントリ 1
- 2W=WINS 手動エントリ 2
- DM=ドメイン サフィクス

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

— ・ SN

```
"IP=192.168.1.10" "ED=0" "SM=255.255.255.0"  
"GW=192.168.1.1" "0D=0" "1D=192.168.3.21"  
"2D=192.168.3.22" "0W=0" "1W=192.168.1.2"  
"2W=192.168.1.3" "DM=MyDomain"
```

上の例では、次のことを設定します。

DHCP を無効にします

スタティック IP として 192.168.1.10 を割り当てます

サブネット マスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 192.168.1.1

DNS の手動エントリを設定します

プライマリ DNS として 192.168.3.21 を割り当てます

セカンダリ DNS として 192.168.3.22 を割り当てます

DNS ドメインを MyDomain に割り当てます

WINS の手動エントリを設定します

プライマリ WINS として 192.168.1.2 を割り当てます

セカンダリ WINS として 192.168.1.3 を割り当てます

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- 番号

```
"IP=192.168.1.10" "ED=0" "SM=255.255.255.0"
"GW=192.168.1.1" "0D=0" "1D=192.168.3.21"
"2D=192.168.3.22" "0W=0" "1W=192.168.1.2"
"2W=192.168.1.3" "DM=MyDomain"
```

上の例では、次のことを設定します。

DHCP を無効にします

スタティック IP として 192.168.1.10 を割り当てます

サブネット マスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 192.168.1.1

DNS の手動エントリを設定します

プライマリ DNS として 192.168.3.21 を割り当てます

セカンダリ DNS として 192.168.3.22 を割り当てます

DNS ドメインを MyDomain に割り当てます

WINS の手動エントリを設定します

プライマリ WINS として 192.168.1.2 を割り当てます

セカンダリ WINS として 192.168.1.3 を割り当てます

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- 番号

```
"IP=192.168.1.10" "ED=0" "SM=255.255.255.0"
"GW=192.168.1.1" "0D=0" "1D=192.168.3.21"
"2D=192.168.3.22" "0W=0" "1W=192.168.1.2"
"2W=192.168.1.3" "DM=MyDomain"
```

上の例では、次のことを設定します。

DHCP を無効にします

スタティック IP として 192.168.1.10 を割り当てます

サブネット マスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 192.168.1.1

DNS の手動エントリを設定します

プライマリ DNS として 192.168.3.21 を割り当てます

セカンダリ DNS として 192.168.3.22 を割り当てます

DNS ドメインを MyDomain に割り当てます

WINS の手動エントリを設定します

プライマリ WINS として 192.168.1.2 を割り当てます

セカンダリ WINS として 192.168.1.3 を割り当てます

一般規則：

- 同じ IP アドレス (IP=) を持つデバイスを複数設定しないでください。
- ED=1 (DHCP オン) を送信すると、他のエントリが無効になります
- 1D および 2D は、0D=0 の場合だけ処理されます
- 1W および 2W は、0W=0 の場合だけ処理されます

Set Profile

パーブ : SP

説明：このコマンドは、ini ファイルの更新に使用されます。デバイス ファイル名は、更新する ini ファイルの名前を指定します。セクション、キー、および値によって、ini ファイルで更新する内容が決まります。

サポート：XPe、CE 3.0、Linux

引数：

- デバイス パスとファイル名
- セクション
- キー
- 値

使用法：

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例：

- SP "c:\winnt\system.ini" "drivers" "timer" "timer.drv" (System.ini ファイルを次のように編集します。
[drivers]
timer=timer.drv)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例：

- SP "%Windows%\SetProfile.txt" "SetProfile" "Test" "Worked" (SetProfile.txt を次のように編集します。
[SetProfile]
test=worked

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例：

- SP "/wfs/SetProfile.txt" "SetProfile" "Test" "Worked" (SetProfile.txt を次のように編集します。
[SetProfile]
Test=Worked

一般規則：

- ファイルが存在しない場合は、作成されます。
- ほとんどの INI ファイルはセクションとキー別に編成されています。セクションは、カッコ付きのテキスト ([Example]) を含む行で定義されます。キーの後には、等号と値 (Key=value) が続きます。
- キーは、1 行に 1 つずつ配置する必要があります。

Set Registry Value

バーブ：SV

説明：単一のレジストリ値を設定します。

**ヒント**

特定のレジストリ キーは OS によってロックされていることがあり、SV 操作を妨害する可能性があります。レジストリ値がロックされていないことをデバイスの製造元と確認してください。次のいずれかを使用してデバイスをリブートしない限り、レジストリ値の変更は永続的ではありません。

RB (reboot) コマンド

[reboot] を右クリックして

手動による操作

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net

引数：

- レジストリ エントリ名を含むレジストリ キーのフルパス
- レジストリ エントリに設定する値
- 引数 #2 に使用するレジストリ タイプ。現在、REG_SZ (文字列) と REG_DWORD (数値) だけがサポートされます。(任意) <![endif]>

使用法：

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

– SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue1" "5551234" 可能なシナリオ：

- TestValue1 が REG_SZ としてすでに存在し、文字列「5551234」に設定されます
- TestValue1 が REG_DWORD としてすでに存在し、数値 5551234 に設定されます
- TestValue1 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestValue1 は存在せず、文字列「5551234」に設定されます

– SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue2" "StringValue" 可能なシナリオ：

- TestValue2 が REG_SZ としてすでに存在し、文字列「StringValue」に設定されます
- TestValue2 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestValue2 は存在せず、文字列「StringValue」に設定されます

– SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestDWORD" "2833" "REG_DWORD"

可能なシナリオ :

- TestDWORD が REG_DWORD としてすでに存在し、数値 2833 に設定されます
- TestDWORD が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestDWORD は存在せず、数値 2833 に設定されます
- SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestString" "MyString" "REG_SZ"

可能なシナリオ :

- TestString が REG_SZ としてすでに存在し、文字列「MyString」に設定されます
- TestString が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestString は存在せず、文字列「MyString」に設定されます
- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue1" "5551234"

可能なシナリオ :

- TestValue1 が REG_SZ としてすでに存在し、文字列「5551234」に設定されます
- TestValue1 が REG_DWORD としてすでに存在し、数値 5551234 に設定されます
- TestValue1 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestValue1 は存在せず、文字列「5551234」に設定されます
- SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue2" "StringValue"

可能なシナリオ :

- TestValue2 が REG_SZ としてすでに存在し、文字列「StringValue」に設定されます
- TestValue2 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestValue2 は存在せず、文字列「StringValue」に設定されます
- SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestDWORD" "2833" "REG_DWORD"

可能なシナリオ :

- TestDWORD が REG_DWORD としてすでに存在し、数値 2833 に設定されます
- TestDWORD が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestDWORD は存在せず、数値 2833 に設定されます
- SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestString" "MyString" "REG_SZ"

可能なシナリオ :

- TestString が REG_SZ としてすでに存在し、文字列「MyString」に設定されます
- TestString が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestString は存在せず、文字列「MyString」に設定されます

一般規則 :

- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- 3 つの引数が指定されている場合は、エージェントは、指定されたタイプの存在しないキーを作成するか、タイプが既存のキーのタイプと一致しなければエラーを出します。

- 2つの引数だけが指定されていて、キーがまだ存在しない場合は、タイプ REG_SZ（文字列）が想定されます。
- 2つの引数だけが指定されていて、キーが存在せず、タイプが REG_DWORD の場合は、エージェントは、値が数値であり、DWORD として設定されていることを確認します。

シャットダウン

バーブ : SD

説明 : デバイスをシャットダウンして、電力の状態を設定します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- なし

使用法 :

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :
- SD (デバイスをシャットダウンします)
- CE の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :
- SD (デバイスをシャットダウンします)
- Linux の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :
- SD (デバイスをシャットダウンします)

一般規則 :

- なし

Synch Time

バーブ : ST

説明 : 更新サーバの時刻と一致するようにデバイスの時刻を変更します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- なし

使用法 :

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes
例 :
- ST (デバイスの時刻を Cisco VXC Manager サーバの時刻と同期します)

- CE の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes
例 :
 - ST (デバイスの時刻を Cisco VXC Manager サーバの時刻と同期します)

- Linux の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes
例 :
 - ST (デバイスの時刻を Cisco VXC Manager サーバの時刻と同期します)

一般規則 :

- ネットワークの遅延が原因で、サーバとデバイスの間では、わずかに時間の相違が発生することがあります。
- タイムゾーン オフセットが考慮されます。正しいタイムゾーンがデバイスで設定されていることを確認してください。

Wake On LAN

バーブ : WL

説明 : シャットダウンされているデバイスをブートします (デバイスでは BIOS で Wake On LAN がイネーブルになっている必要があります)。

サポート : ハードウェア依存であり、エージェント依存ではありません。

X Copy

バーブ : XC

説明 : 指定したデバイス ディレクトリとその内容を指定したローカル ディレクトリにコピーします (XCOPY または cp -R に相当)。

サポート : XPe、CE 3.0、Linux

引数 :

- リポジトリ ディレクトリ (送信元)
- デバイス ディレクトリ (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :
 - XC "<regroot>%Files%winnt%system32%" "C:%winnt%system32" (パッケージの system32 フォルダのファイルをすべてデバイスの system32 フォルダにコピーします)
- CE の使用法
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No
例 :
 - XC "<regroot>%system%" "%system" (パッケージの system フォルダのファイルをすべてデバイスの system フォルダにコピーします)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- XC "<regroot>¥XCtest¥*" "/wfs/" (パッケージの XCtest フォルダのファイルをすべてデバイスの wfs フォルダにコピーします)

一般規則 :

- 送信元パスは <regroot> で定義する必要があります。
- 送信元パスは ¥* で終わる必要があります (* は、すべてのファイルとディレクトリを示すワイルドカードです)。